

2026年4月1日

一般社団法人 日本糖尿病学会

緩徐進行1型糖尿病 (probable) に対するシタグリプチン

およびメトホルミン使用に関する注意喚起

緩徐進行1型糖尿病 (probable) に対して、DPP4阻害薬のシタグリプチン、および、ビッグアニド薬のメトホルミンの適応外使用を保険審査上認めるとの通知がなされた(1)。ただし、留意事項として「必ず内因性インスリン分泌能の残存を確認してから使用する」ことが記載されている。既に「緩徐進行1型糖尿病疑い例への治療介入に関するステートメント」(2)にて周知されているように、いずれの薬剤を選択した場合でも、経時的に血糖コントロール状態や膵β細胞機能(C-ペプチド測定)を評価して、慎重な経過観察を継続することが不可欠である。血糖コントロールの悪化や内因性インスリン分泌の低下が疑われる場合には、速やかにインスリン治療を導入するなどの対応によって、インスリン依存状態への進行抑制に資する治療への変更が望まれる。

作成：日本糖尿病学会
1型糖尿病における新病態の探索的検討委員会

1) 厚生労働省 保医発0225第1号(令和8年2月25日)

(<https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/shikoku/000431177.pdf>)

2) 島田朗ほか：1型糖尿病における新病態の探索的検討委員会「緩徐進行1型糖尿病疑い例への治療介入に関するステートメント」糖尿病66(12):807-814, 2023